

リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟市立白新中学校

【取組内容⑤】

特別支援（知的）学級におけるICT活用

BEFORE

【生徒】

- 書字に困難があり、自分の考えを言語化し、文字化することが困難であった。
- 自分の学んだことを記憶しづらい、また、整理することが困難であり、効果的な振り返りが困難であった。

姿の
変容



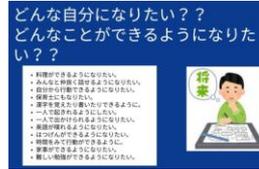
AFTER

【生徒】

- iPadで文字入力することにより、手書きの困難さが軽減し、自分の考えを表現しやすくなる。
- 学びを整理することで、学習を振り返ることができ、自己の成長を確認することができた。

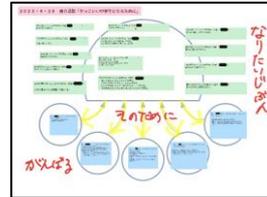
① iPadでの文字入力

jamboardなどのアプリを用いて、キーボード入力での自分の考えを表現できるようにする。



② クラウドでの情報共有やネット参照

クラウド上で、すぐに他者の表現を参考にしたり、ネットでの表現を参考にすることができ、表現方法のモデルを見つけることができる。



③ 自己を振り返るクラウド上での学びの記録

ワークシートを作成し、クラウド上で学びの記録をする。

1 授業で1枚のワークシートで、視覚的にわかりやすくなることで、自己の学びを振り返りやすくなる。思考ツールをiPadで活用することで、自分の考えを整理し、記録しやすくなる。



成果

- * () 内は手立てとの関わり
- ・生徒が文字を書く負担が減ったことから、学習に取り組みやすくなった。(①)
- ・生徒が学習する際、自分の意見を表現する機会が増えた。(①②)
- ・生徒が交流学級での学習の際、iPadを使用することで自分の考えを表現できるようになった。(①②)
- ・生徒が以前の自分の考えを今の自分の考えを比較し、成長を自覚できるようになった。(②)
- ・生徒が学習過程を蓄積できるようになった。(③)

課題

- ・紙に書く方が学びやすい生徒もいた。生徒が選択できるようにする必要がある。(①)
- ・表現方法のモデルを参考にしなくても、自分の考えを表現できるようになるための手立てが必要になる。(②)
- ・以前の自分と比較することは可能になったが、学習の進め方は、教師が主体で設定しているため、自分で学習の進め方を設定できるよう手立てが必要である。(③)

方策

- ・iPadや紙など、自分に合う文字入力を促す。(①)
- ・生徒が学習した内容を教師が価値付けし、よりよい成長を促す。(②③)
- ・生徒自身が学びの方法を選択できるよう学び方のモデルを提示する。(③)
- ・ワークシートを工夫し、学習した過程を記録することで、学びの振り返りのポイントを明確にする。(③)